

# 予算決算委員会

予算の審査は、総務・文教環境・地域福祉の各分科会に分かれ、詳細な審査を行いました。その後、予算決算委員会の全体会においては、各分科会から審査の経過と結果の報告を受け、審査を行いました。

## 総務分科会



6月21日 (午前) 6月21日 (午後)

議案第50号 令和6年度鈴鹿市一般会計補正予算(第1号)

### 全国の高専生を対象としたイベントを開催

#### 〇すずか未来デザインLABO事業費 210万円

**【概要】** 総合計画2031の将来都市像「ひとつつながりDXで未来を拓く#最高に住みやすいまち鈴鹿」を具現化するため、「すずか未来デザインLABO」の取り組みのひとつとして、イベント「全国の高専生を対象としたハッカソン(※)」を開催する経費を計上するもの。

※ハッカソンとは、システムの解析や改良を意味する「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語。特定のテーマに対して、プログラマーや設計者などソフトウェア開発の関係者がチームを組み、一定期間集中的にプログラムの開発やサービスの考案を行い、その成果を競う催し。

**質疑** 報償費148万円の内訳は。また、講師の人数は。

**答弁** 講師の謝金30万円、講師の旅費18万円、記念品代10万円、イベント参加者の旅費90万円を見込んでいる。講師は6人を想定している。

**質疑** 高専の数および募集方法は。

**答弁** 高専は全国に58校ある。募集方法は、鈴鹿工業高等専門学校と打ち合わせを行い、効果的な周知方法を一緒に考えていきたい。また、参加方法については、2人から4人のチームでの参加を想定している。

**質疑** 準備期間が短い、過度な残業は発生しないか。

**答弁** 準備期間は短い、全員で協力して、業務の平準化を図っていきたい。過度に特定の職員に負担がかかるというようなことは、控えていきたいと考えている。

**質疑** 生成AIの活用については。

**答弁** ハッカソンにスローガンをつけて開催することが多いが、そういったものに活用できないかを考えている。また、効率的な情報発信にも活用できればと考えている。鈴鹿工業高等専門学校の学生達と一緒に、企画の段階から取り組むため、生成AIは、あくまでも補助的な役割として考えていきたい。